

ジーシー ティッシュコンディショナーを利用した 義歯の修理と作製

静岡県富士宮市
森本達也



はじめに

歯科治療全般にあてはまることだと思うが、それぞれの治療過程において、各ステップにおける効果判定後に次のステップに進む方法をとる。この方法は、手間はかかるが、何かトラブルが生じた場合の問題の解決がわかりやすく、確実に治療を進めることができ、不確定要素の多い歯科治療では、治療による改悪を防止する上では必要な手順だと考えている。

義歯を例にあげても、不十分な義歯の支持、不安定な下顎位、不良な審美、発

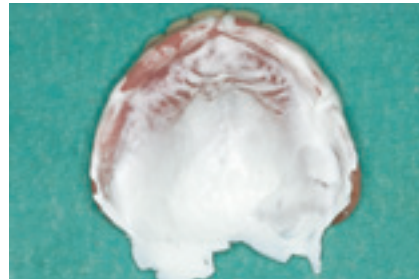
音、咀嚼、装着感などの問題を抱えた義歯の修理、再製を行う場合、患者の順応性、機能回復の程度、希望等で異なった床外形、下顎位、人工歯の配列位置などの設定位置が異なる。そこで、仮義歯を用いてそれらの項目を患者さんと検討し、問題がない形態、位置を確認して、最終義歯を作製することがその後の安定にもつながり、患者さんの納得も得られると思う。

この方法を行うにあたって、従来のレジン床のみの仮義歯で治療、リハビリを進め

ていくよりは、ティッシュコンディショナーを用いて、今まで痛めつけられてきた顎堤の回復とともに、痛みの少ない状態で治療を進めていく方が、機能回復も効果的に行える。さらにティッシュコンディショナーを印象として用いることで、口腔内で機能的に得られた印象面を誤差の少ない状態で模型上にトランスファーできることから、利用価値の高い方法だと考えている。



1・1 下顎両側遊離端欠損をアイバーパーシャルで処置されている症例。上顎は総義歯、上顎前歯部と下顎臼歯部の疼痛で来院。



1・2 咬合させて適合状態の確認。下顎前歯が上顎前歯部を突き上げ、上顎義歯は前歯部が沈下、床後縁が浮き上がり、前歯部疼痛、吸着の減少が認められる。



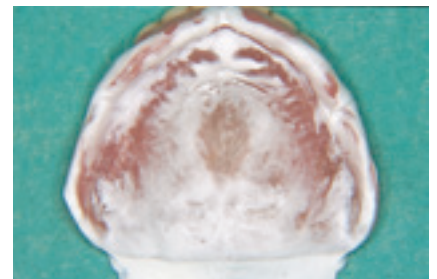
1・3 上顎に対応して、下顎遊離端部の義歯の沈下に伴う、下顎臼歯部床辺縁部のあたりが認められ(1-1)では近心レストの浮き上がりも確認できる。



1・4 レストをシートさせての適合状態。厚み分だけ義歯の沈下が想像できる。顎堤粘膜の回復、床外形、咬合関係の確認も含め、まずティッシュコンディショニングを行う。



1・5 ティッシュコンディショナーは目的によりフローを調整する。ベースとなる部分はフローがない状態にし、可動部の辺縁は適度にフローのある状態で使用する。(ジーシー ティッシュコンディショナー ライブピンク使用)



1・6 ティッシュコンディショニング後の上顎義歯の適合状態。下顎臼歯部の支持性が増すことで、上顎臼歯部の浮き上がりも減少してくる。



1
7 ティッシュコンディショニングと咬合調整を繰り返し、顎堤粘膜の回復、床外形、咬合関係等、問題がなくなった状態でレジンに置き換える。(ジーシー ティッシュコンディショナー ライブピンク使用)



1
8 一度に全部ティッシュコンディショナーを除去し、レジンに交換すると、今まで調整、確認してきた位置関係、床外形、咬合関係が変化する。



1
9 できるだけ今までのティッシュコンディショニングの状態をレジンに置き換えるために、舌側をストップに頬側のみレジンに置き換えた。



1
10 その後、舌側のティッシュコンディショナーをレジンに置き換える。床全体を一層削除した後、全体をウオッシュして完成。



2
1 総義歯の場合、残存歯による義歯床の位置づけの基準がないため、義歯の挿入や、口腔内での保持により、位置変化が起こる。(ジーシー ティッシュコンディショナー ライブピンク使用)



2
2 その変化を極力少なくするために、ティッシュコンディショナーの交換やレジンへの置き換えは分けて行う。左側臼歯頬側のみレジンに交換。



2
3 頬側部をレジンに交換し、舌側のティッシュコンディショナーを除去した状態。



2
4 左側臼歯舌側の交換。この時、頬側に余剰な部分が重なり、微妙に高くなるため、最終的には一層削って、全体をウオッシュする。



2
5 同様に右側臼歯頬側、舌側、前歯頬側、舌側と分けてレジンに交換していく。



2
6 最後にウオッシュした状態。直接口腔内で交換する場合、材料が積層され、浮き上がり、床の拡大など形態の再現性、位置変化の問題が大きいので注意する。



3
1 3
2 2年前上下総義歯作製。





3
・
3

下顎はジーシーライン(ソフト)を使用。



3
・
4

3
・
5

多少適合が悪くなってきた程度で機能的には問題がないが、レジンとの境界面からの剥離と材料が劣化してきていると判断し、交換を行った。



3
・
6

直接口腔内での交換は、ほとんど問題のない床外形、咬合関係が変化してしまう可能性が高いため、リプレースメントジグを用いて交換した。



3
・
7

リプレースメントジグは手間がかかるが、交換に伴う形態、位置の変化が少なく、また失敗しても最初の状態に戻してやり直しができる利点がある。



3
・
8

フローの小さいティッシュコンディショナーでベース部分を作製し、辺縁部と内面を一層フローのよいものでウオッシュし、コート材を塗布した状態。(ジーシーティッシュコンディショナー ライブピンク使用)



3
・
9

ティッシュコンディショニングを行いながら、適合、床外形、咬合に問題がないことを確認し、再度ジーシーラインに交換。



3
・
10

それまで調整してきた形態や咬合関係が、交換作業で大幅に変化し、その苦勞が水の泡となることを考えると、リプレースメントジグは有効だと思う。



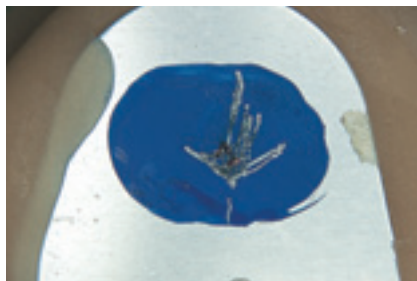
4
・
1

義歯が痛くて噛めないと言った義歯の新製を希望して来院。義歯の新製の場合、床外形、下顎位、人工歯の配列位置を新たに設定する機会が多い。



4
・
2

旧義歯の状態。顎堤吸収が大きい症例では、支持性の高い床外形が要求されるが、装着感との兼ね合いもあり、患者と共に試行錯誤が必要となる。



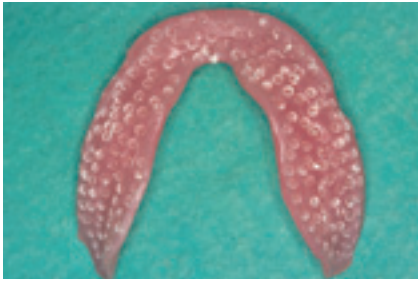
4
・
3

下顎位も仮の咬合高径を決め、ゴシックアーチトレーシングを行い、仮の水平的下顎位を設定してどの位置に安定するか確認が必要となる。



4
・
4

床外形、下顎位、人工歯の配列位置が不確定な場合、治療用義歯を作製し、その確認を行う。筋形成を行い、大きい床外形から始めた。



4
5

4
6

4
7

確認がある程度できたら、顎堤粘膜の回復、痛くない状態でリハビリも含めた、さらなる機能回復、それに伴う辺縁形態の微調整を目的にティッシュコンディショニングを行う。厚みを確保するため、2mm程度のガイドホールを基準に(4-5)内面を削除し、リプレースメントジグを用いて全面交換を行い(4-6)、その後辺縁部分をカットし、フローのよい状態で筋形成を行いながら、口腔内で内面をウオッシュする(4-7)。(ジーシー ティッシュコンディショナー ライブピンク使用)



4
8

4
9

筋の緊張緩和、患者の順応性、筋形成の不備などから、辺縁形態が変化してくる。床外形が延長されるような場合、ティッシュコンディショナーだけでは、形態的に不安定なため(4-8左側頬側後縁と前歯舌側)、レジンによるバックアップが必要となる(4-9)。

4
10

レジン部分の拡大により、リプレースメントジグに適合できなくなる。



4
11

リプレースメントジグの石膏模型を調整し、義歯が適合できるよう調整が必要となる。咬合面、床外面の変化が大きく、調整では不十分な場合、再度ジグを作製する場合もある(4-6、4-10、4-11)。

4
12

ティッシュコンディショナーを用いることで、日常生活の中での機能圧をも含めた印象面として利用できる利点もある。全面交換の翌日の状態。(ジーシー ティッシュコンディショナーホワイト使用)

4
13

咬合関係、咀嚼機能、違和感等に問題がなければ、仮義歯を印象として作業模型を作製し、咬合床として咬合器附着、人工歯配列の参考模型とする。



4
14

従来の製品は模型面に粗造感があるものが多かったが、今回のジーシー ティッシュコンディショナーはコート材により滑沢な面が得られる。

4
15

最終義歯の内面。重合収縮による変形が少ないように、注入しながら重合するタイプのレジン重合器を用いている。

4
16

確実性と信頼を得るには治療用義歯で満足できる形態、位置を模索する方法が有効で、それにはティッシュコンディショナーは必要不可欠になっている。